

ウーダン

HUTAN

(マレーシア語で森の意)

No.4 1988.10.6

発行 森と生活を考える会

郵便振替 大阪3-3880

大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308

「自然を返せ! 関西市民連合」事務所気付 ☎06-372-1561

¥100



「伐採企業は、我々の森を襲し、食べものなどを奪った。森は我々の生活の地なのだ。企業が聞き入れるまでここにとどまる」と、伐採道路を封鎖したマレーシア・ボルネオ島の先住民。昨年、7ヶ月間のパレードの後に待っていたものは大弾圧とサラワク州の強制定住政策。10月31日、不当逮捕された先住民にたいし、裁判が開かれる---

貯木場を見学して

新厩道子



待ち合せの南港口より三駅程前から貯木場が目映っていた。駅を降りると、おおかすかな木のいい……。貯木場をこの目で見るのは初めてだったが、一歩踏み入れて何とも言えない気持ちになった。何と荒涼とした風景……。枝のない、葉のない木々。これらの木はもはや生きてはいないのだ。一種の商品でしかないのだ。一つ一つの商品には名前が銘記されていた。米松は回転が早いらしく、どうりで辺りにあまり見当たらない。反面、2、3年もここにおかれたままの木もあるそうだ。多くの南洋材が港に浮べられている。長い間水につけて大丈夫かと尋ねると、かえって陸にあげると乾燥により割れ目が生じたり虫にやられることがあるとい

うことだった。又、コスト面でも陸に置くとは3倍にもなるとの事。

陸にはアラスカ産のスプルース、榎など、そして中国からタモ等直径1メートル近くの大木が積み上げられていた。中には海から引き上げられたばかりのふやけて、貝殻の付着した下半分と乾燥のため大きな裂け目を持つ上半分が異様な木もあった。

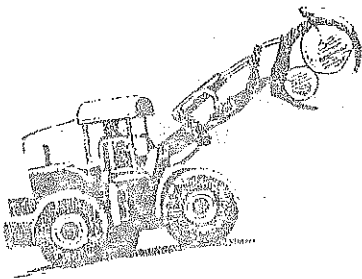
私達は海面に浮ぶ木々の上に実際に足を運んだ。初めての経験である。歩く度の揺れに、顔をひきつらせながら原地で一本一本の木に彫られた番号を目にした。

続いて、形よく積まれた板が多くある所へ向かった。板に切断される過程において、芯や端の部等その約3割は廃棄

されるところである。

そこでとても恐ろしい話も聞いた。

ベトナムでは、ベトナム戦争の折にち込まれた弾丸が木を切られる際、爆発する事があるという。戦争の傷が木にまでも及んでいると思うと背が寒くなった。人間の勝手な支配為、どれだけ多くの木の生命が犠牲なり、今もされつつあることか。反面、私達は、莫大な量の材木を浪費している。広大な港に浮べられている全ての木を私達は消費しているのだ。森林問題はこんなに身近なものなのと感じつつ、帰途についた。



熱帯木材貿易からみた 日本—マレーシア関係

現在、マレーシアは世界最大の熱帯木材輸出国であり、世界の熱帯広葉樹丸太の七三%を輸出している。一方、日本は世界最大の熱帯丸太の輸入国であり、世界の五二%を輸入している。(いずれもF.A.O.の林業統計年鑑による)。

これを日本側からみると、日本に輸入されている熱帯木材のうち一九八七年ではなんと九一%がマレーシアから来ている。他方、マレーシア側からみると、東マレーシア(北ボルネオ)のサバ州では昨年六九八万立方メートルの木材が日本に輸出され、これはサバの全輸出量の七割。またサラワク州は同じく五四九万立方メートルで、全輸出量の四割にあつたている。(日本木材輸入協会による)。

日本は、戦前から熱帯木材を東南アジアから輸入していたが、戦後の朝鮮戦争特需をへて高度成長期に突入すると急速に輸入量を増やし、最

盛期の昭和四八年(一九七三年)には二六〇〇万立方メートルという驚異的な輸入量に達しました。そのころまでに最初の輸入国だったフィリピンの木材資源は乱伐により急速に減少したため、昭和四〇年代にはインドネシアのカリマンタンなどへの投資が集中的に行われ、いわゆる開発輸入が行われました。しかしながら、インドネシアは八〇年代から合板産業の育成に力を入れ、八五年には丸太の輸出を最終的に全面禁止するにいたりました。

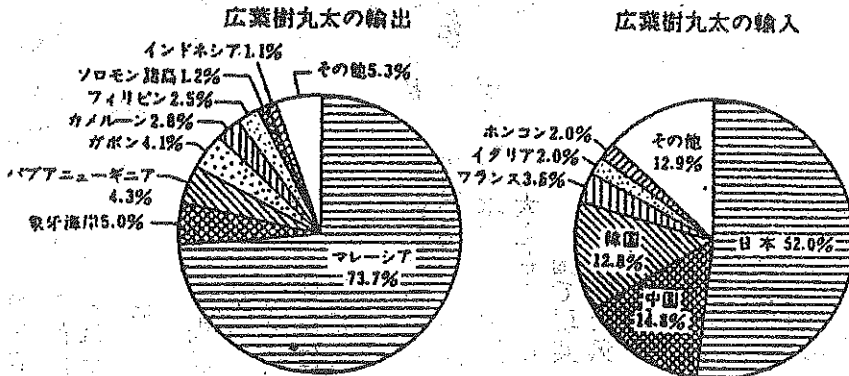
その結果、現在みられるように日本は熱帯木材のほとんどをマレーシアに依存するようになったのです。

熱帯林の破壊と木材伐採の関係

熱帯林の減少の原因は国や地域により異なりますが、東南アジアの島しょ部(フィリピン、東マレーシア、インドネシア、南オセアニア)の場合、ブタバガキ科(いわゆるラワン

世界の熱帯木材の主要な輸出国、輸入国 (1985年)

(1) 熱帯広葉樹丸太 (計2,683万m³)



材)等を中心にした商業用伐採の對象となる樹種がアマゾンなどの他地域にくらべて圧倒的に多く、そのために主として日本向けに集中的な伐採が行われました。伐採された後の農地やプランテーションへの転換や移住民の粗放的な開墾などによりさらに徹底的な破壊が行われるとしても、伐採は與地への道路建設をともしなされた、破壊の最初の一撃であることは明らかです。

よ、関係政府や業界は、焼畑が森林破壊の元凶であると主張しますが、こと上記の地域に関しては、伝統的移動焼畑農業は、長年先祖が耕してきた地域を巡回して使い、原生林を焼くことはほとんどまれです。

△木材輸入業者と日本政府の役割

日本政府や業界関係者は、日本はただ木材を買っているだけで、森林破壊があるとすればその責任は、現地政府にあり日本は関係ないと主張しています。確かに現地政府や伐採業者の責任は重大です。しかし日本に責任はないのでしょうか。

輸入商社などが、ある特定の森林を伐つて木材を輸入したい時、日本

側はまずその森林の伐採権を持つ人と交渉し、必要があれば伐採用の道路の建設や高価な機械設備の導入のために資金を貸し付けたりしてきました。伐採は現地企業が行なうことが多いものの、日本が積極的に投資をして、現地に合弁会社を作り、森林開発も併せて行なうケースも決して少なくありません。特にインドネシアやパプアニューギニアなどでは多くの合弁会社が開発し伐採を行なっていました。

セラワクでも例えば、伊藤忠商事は伐採反対運動の起こったリシバン川の與地の伐採を現地の企業との合弁で行なうてきました。しかもこの場合、道路建設のためになんと、日本政府の援助金が使われていたのです。このような伐採道路建設などのために政府開発援助のお金、それは私たちの税金です。それが使われている例はパプアニューギニアなどでもみられます。その他森林破壊を促すような大規模なダム開発などのために日本の援助が使われる例は少なくありません。

もし仮に日本が単に木材を買っているだけだとしても、熱帯森林破壊の問題がこれほど深刻な問題になって

いる以上、まったく責任がないと済ますことはできません。生産国と消費国はともに現在直面している問題のために努力する責任があるのは当然のことといえます。

△熱帯森林の破壊は経済的にも損失

熱帯森林の破壊は、現地に計り知れない問題を引き起こします。住民にとっては動植物や魚などの食糧資源の減少という直接的な被害をもたらしますが、森林が失われれば土壌の栄養分が流失し、水資源の供給の減少、さらに干ばつや洪水、森林火災といった自然災害の増大をもたらします。これはすでに多くの国で現実になっています。また地球的な気象に影響を与えることから日本自身にとっても無関心ではいられません。また経済的にみても短期的には熱帯諸国の所得に貢献するもの、ごく一部のみに富は集中するだけで短期的に資源を枯渇させた土地からはほとんど何も得られなくなり、本来なら永久に得られるはずのさまざまな恩恵を永久に失うことになるため、長期的にみれば生産国、消費

表第15 南洋材原木輸入量(1965年)

会社	1979	1980	全輸入量
伊藤忠商事	21.8	52.7	90.4万m ³
日商船社	36.6	33.4	92.6
豊田木材	24.5	47.4	76.7
ユアサ産業	17.1	55.0	74.3
丸紅	30.6	41.7	75.3
ニチメン	39.1	35.6	76.7
三井物産	36.4	14.9	56.4
住友林業	3.6	32.9	54.5
住友商事	5.8	24.9	31.3
明和産業	9.3	26.2	37.2
川鉄商事	15.4	11.0	26.5
トーマン	0.4	15.3	24.7
日比屋島	23.2	6.4	30.1
大倉商事	25.1	2.2	29.7
三菱商事	13.8	13.7	33.8

現地住民がその生存を脅かされ伐採に反対している以上、そして伐られた木材の多くを私たちが使っている以上、これ以上輸入を続けることは、彼らの大権侵害に私たちが加担することと同じです。いまこそ私たちはこのような森林住民を脅かした材利用のあり方を求めていく必要があるとおもいます。九割もの熱帯木材を依存しているマレーシアから木

材がこなくなったら日本は困るではないかという人もありますが、このままではいずれ枯渇して来なくなってしまう。それはそう遠い先ではありません。だったら今からそうならないような賢い森林の利用法を確立すべきでしょう。少なくともサ

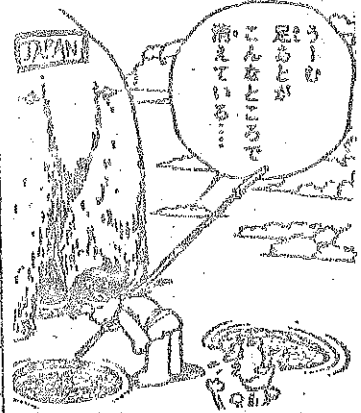
ラワク現地だけでは問題の解決は図れそうもないことから、問題解決のためのキーポイントは日本がこれからどうしていくかにかかっている。今、私たちは、そして世界の市民は考えているのです。

(熱帯林行動ネットワーク作業より)
振替・編集) 編集部

南洋材産地別輸入比率

単位：数量=1,000m³、比率=100%

年次	総輸入量 1,000m ³	産地別比率(%)					
		749E7	740-97			741-97	その他
			9A	1979	751		
1965	9,306	80.5	30.2	6.9	3.2	2.0	0.2
1970	20,237	37.3	18.5	0.3	0.3	30.1	2.0
1973	26,789	22.0	27.3	4.7	0.3	41.8	3.8
1975	17,333	16.4	34.4	4.1	-	42.1	3.0
1980	18,956	5.6	35.3	11.0	0.1	45.6	3.5
1985	13,001	3.9	45.3	41.5	-	1.0	8.2
1987	13,688	0.2	51.0	40.1	0.2	0	8.5



出所：日本木材輸入協会公表資料から作成

*その他にはカンパチ(87年度は7.0%)、2019産地(同じく1.1%)、ヒノキ、ラオス、パプアニューギニアなどがいる。



奪われた大地・フィリピンの(1)

西岡 良夫

青空がスールー海にいっぱい拡がって、アウトウリガール船がパシラン島のほうへ行く。ここフィリピンのミンダナオ島、南西部のサンボアンガ市は、かつてイスラム文化が栄え、その後スペイン、アメリカの植民地政策でキリスト教とイスラム文化が折り重なる港町だ。サンボアンガ、イスラムの人々は「花の都」と呼び、スペイン語で「交易の地」という。米、塩、野菜、パンなどごちやごちやに置かれたマーケット。「カバシヤス！」と叫ぶイスラム人は、小さなカツオを板ぎれの上に七、八匹のせている。

市街に出ると、所々に警察や政府軍が検問をしている。貧しい農民に支持されたNPA(新人民軍)やMNLF(モロ民族解放戦線)の力が強まり、「ジャングルへいくのは危険だ」とガイドのジェリーさんは言う。

ミンダナオ南部やスールー諸島の人々は、植民地支配に最後まで抵抗を続けて、東南アジアでは「領有」が決まらなかつた土地だ。今はフィリピン政府に対し、MNLFは「ここは我々の所だ」と主張している。昔より自然崇拜やイスラムに同化した人が漁撈、焼畑や狩猟を生業と



して住んでいたが、一九世紀ピサヤ地方からの移民が流れ込んできて、今クリスチャンが七割近くを占める。車は土煙りをあげて海岸沿いを走る。コンクリートに固められた岸辺ではマングローブが見あたらぬ。黒い雲が山を蔽い、陽に輝く椰子林プランテーションやバナナ園が海岸沿いに塊となって現われる。市街からもう二〇kmほど走ったろうか。遠くに森を切ったと思われる禿山が見えはじめる。サンボアンガから北へ約四〇km、ラブアン村から奥へ入っ

て、車を残してジャングルへと向かう。

アサギマダラ蝶がバナナの葉の上を舞い、空に緑が湧き立つ。車を待たせてもらっているので早足で登って行くが、なかなか伐採地は遠い。谷はそんなに深くないが、吸い込まれそうに遠く感じる。椰子の葉でふいた民家の側で小さな木を切る男の人に、話しかけるが上手に通じない。昔から住んでいる先住民かもしれない。身振りで教えてもらって、僕は奥地へと行く。

急斜面を登りつめると、ラテライトのむきだし所に出た。緑の絨織が剥ぎ取られ、原生林はほとんど残っていない。この地の奥はグレート・パシフィック・ティンバー開発会社だと、人々は言っている。

この合弁会社は、丸紅が一九八〇年に約一億円を投資して作られた。山々からラワン、ラタン、アピトン、

チークなどの木を切りだして、サンボアンガ市の郊外の工場から合板材にして、ほとんど日本へ輸出している。丸紅は伐採契約のときに名称変更をおこなって、少しの金をフィリピン政府に支払った。だが、一九八五年の売上額は、一年で七億円にもなる。この会社で五年間の売上額が約三〇億円以上になっているといわれている。

マルベニコス——丸紅とマルコスとの癒着がひどいから、こう呼ばれていた。八一年から八四年にかけて、日本へ輸出した木材量四五五万、兀のうち半数以上が密輸出で、約八一億円に相当すると公表された。一方、マルコスも税関や森林開発庁などだき込んで蓄財していったらしい。

サンボアンガの周辺の森は切り削られて、見る蔭もない。赤土が露わになった大地とパームヤシとバナナ園。

グレート・パシフィック・ティンバーの製材工場の周りには、四〇戸ほどのムスリムや先住民が住む家がある。家といっても、板と止め金だけの粗末な住まい。地べたのまま、板切れが落ちそうな家に住まざるを得ない人々。それも三人ぐらいしか寝られない住居で、人々は土と垢で赤黒くなったまま、破けた服を着ている。口にするバナナも水もない。

バクディカンという木の端を集めていたイスムラさんは、「一日に二〇ペソ（一三〇円）がやっとよ。街に行くお金もないし、仕事もないので、工場で棄てられた木を拾って、生活しなくちゃならないの。もう、戻る地もないし、ここだけよ。誰か端木を買ってくれないかなあ。」沼地状の原っぱにたえずむ大きな腫。あまりにもまぶしすぎる。僕は、見つめ返す暇も何も持っていない。

※カツオ

語はカバシヤス

生活の中から

熱帯林がみえるカナ

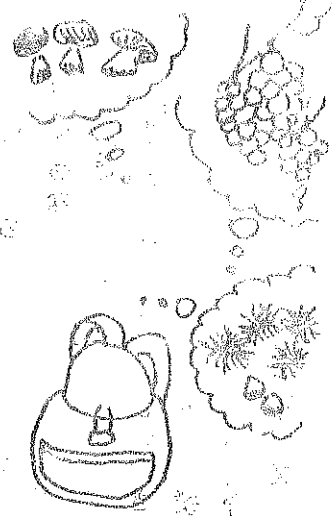
紙

午島美成子

公開勉強会を総括してみると、これから何をしていくのかが強く問われてきた。自分達の活動は、木材現場の様子を伝えることに付け加えて、自分達の身近な問題として受け止め、かつ、今のあるものがあるだけ使うという時代の流れに歯止めをかけるためである。(メンバーそれぞれに思い入れの違いはあるのだが)あまりに大きな目標を言い切ると、ではどこまでどうするのか、つつかかれると返答に困ってしまう。4回目の勉強会でもどこまでを無駄使いとするのか、全面に廃止なんて現実は無理だろうし、つまり、共稼ぎの家産の紙おむつ、コピー機、集会用のびら、et.c.私の職場にあふれている、コピーミシンでいらなくなった紙は、メモ用紙の活用がしかならない。あまりにその枚数が多いため、メモ用紙が氾濫している。

職場に古紙回収業者の方に来ていた時にいろいろ聞いてみると、今はカナダから安いパルプ材が入ってくるから、紙回収業者は非常な不況に陥っている。古新聞は1kg値5円、ダンボールは1kg値7円だという。1年前にコロンビアとコピー機の増加で、紙の需給が大綱にのびて、一時的に紙の原料がなくなり、古紙の取り合いになったことがある。しかし、今は、さらに安いコストで製品を作ろうとしているために、製紙業界は輸入に走っている。5年くらい前には紙の原料として50%を古紙に依存していたのに、今度古紙が重宝がられる時は、今以上に需要が増えた時(多分無駄使いも同様に増えた時)だろう。

スーパーで買い物しても、サービスピスでか、過剰包装が目にあまる。子供のおもちゃは、きれいな包装紙とか、ビニール袋は、たんでしまっておいたものだが、今ものがあふれている時代に15年前の感覚でものをとっておくと、スペースがいっぱいあっても足りない。あふれて



いるものをみんな敢て保存しようとは思わなくなる。子供は、保存しようということすら思い付かないようになる。ほしいものは買ってあげればいいし、いらなくなつたものは捨てるのがあたりまえ。今やそんな時代。

この世の悪いをくどくど書いていてもどうしようもない。みんなが実感として木、葉のよさを感じ、生活と隔離して森林浴を来し心ではなく、生活の基盤としての森を感じていけるようによびかけていけたらと思う。

さあ、秋。何よりも美しい赤色に葉を染め上げ、冬のエネルギーの源を産み出す森林にハイキングにでかけましょう！ウータンでも、11月3日に1日ハイキングを予定しております。詳細未定。興味のお有りの方は、乞う電話！

環境問題が浮上

9/29
4/17

IMF総会 各国が言及

「開発融資に配慮を」

【西ベルリン二十八日】山田博彦駐西ドイツ大使は二十八日、西ベルリンで開かれていた開発融資基金（IMF）の総会に出席し、環境問題が途上国の貧困問題と併せて重要問題として浮上した。同地による自然破壊が生産を妨げ、地域の貧しい人々の生活を破壊していることが、コナブル世銀総会に大きな注目を集めた。世銀の環境問題が急務を要して西ベルリンに集まったことを受けて、日本も総会を初めて環境保護に力点を置く演説を行った。環境保護に配慮した融資が今後の課題であることが印象付けられた。

コナブル総会では、世界で十億人以上の人々が最低限の生活を確保されておらず、途上国は貧困から逃れるための融資の必要性を訴えている。途上国の人々の生活を脅かしていること、いわれれば貧困と環境悪化の悪循環を打破する共同責任を背負っていることだ。カナダのウイグルソン首相は、世銀が融資するプロジェクトが環境破壊を招かないようにするために、環境要件の厳格化について、情報公開の環境保護団体など非政府組織（NGO）などと協力して環境アセスメントを行うべきを提案した。西ドイツの環境大臣は「西ドイツが融資する開発案件は事前の環境への影響を調査している。IMFも環境問題の調査を強化すべきだ」と述べた。

日本も、行天大蔵省副官が二十六日の開発融資基金の総会で「熱帯森林保護の保全、砂漠化防止などの注目の維持は環境問題だ。地球という相対的環境を守るため、先進工業国の義務が途上国の開発に生かされることを希望する」と発言した。日本代表は環境保護を総会でも強調した。これは、大蔵省の巨額融資計画は「最近のパンク・ラミンの洪水は上流での伐採が原因。環境アセスメントで伐採の量がわかるので、そのエビデンスを日本に輸出する。日本は、東南アジアの環境保護と連携を怠っていない」と述べた。環境保護団体は「環境保護団体が環境問題の調査を強化する必要がある」と述べた。

生活を破壊する」としてやり玉に挙げた。NGOはロビー活動も積極的に行っており、世銀や先進各国代表は環境団体に耳を傾けざるを得なくなった。また、日本政府は環境団体の総会参加を認めない、唯一の先進国。環境問題の論議に加わったものの、参加はほとんど腰がすわっていないようだ。

IMF世銀総会での環境問題がクローズアップされたこと、日本は先進国だ。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。

IMF世銀総会での環境問題がクローズアップされたこと、日本は先進国だ。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。

環境問題がクローズアップされたこと、日本は先進国だ。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。IMFは環境問題が途上国の開発に生かされることを希望する。

必要があると思う。(風木)

世界の

熱帯林の40%が破壊

ニューギニア、おまえもか……?!

ニューギニア、アマゾン、アンデス—
 ここは一度行ってみたいところだ。産業
 革命が促進し、石油文明が欧米、日本、
 そしてオ三世界をも戦う中で、火打ち石
 で火をともし、食用や灯りなどにする
 パチア・ニューギニアの人々。しかし、
 どんどん文明が興地へ入ってゆき、人
 々の生活も様変わりし始めた一九七〇年。
 「ニューギニア高地人」に、今でも興味
 を抱く僕だ。だから、ニューギニアに行っ
 た田中氏の話によけいに目を傾ける。

田中氏によると、ニューギニアは密林
 やその他雑木が混ざったところという。
 混合林で密度が高くないから、伐採が進
 まなかつたのかも知れない。そして、部
 族の酋長の方が強いことも伐採を遅らせ
 たのではないかと……。

ニューギニアでは、一九五九(昭三三)

年から伐採が始まった。一九六六年頃か
 らニューギニア、ソロモン島など南太平
 洋の島々で開発が相次ぐ。安宅、トーマ
 ン、住友商、伊藤忠、日鋼等井などの企
 業は、フィリピン材材場により調査をは
 じめた。一九七一年には、本州紙など
 四社でジャント社を設立。ジャント社は
 日系企業で最大の伐採地をもつ。その他
 5社の日系企業がニューギニア、ソロモ
 ン諸島に資本投資しているといわれる。
 フィリピン、サバ、インドネシアの森
 林を切り倒し続けたため、木材業界は、
 最後に期待できる熱帯林原木の輸入先は
 ニューギニアと云う。そして、内閣抜
 大により製紙業界も好景気で、ジャント
 社では当初の予定を変え、混交林も伐採
 し、タンボール用にも利用しはじめてい
 る。何と云う人間のチエだろう。

アジアの各地で火山の群れが続く。イ
 ンド、バングラデシュ、スリランカでは
 全ての原生林が消失した。森林は気候を
 安定させ、洪水を防ぎ、土壌の流失をく
 い止めていた。しかし、これらの地域で
 洪水が起こりやすい地域が増え、今年も
 バングラデシュで大洪水が起きている。
 酸素を生み出す地球の緑の帯。熱帯林
 はどんどん、人間の手によって消されて
 ゆく。

公開講座の最後に話をされたJATA
 N東京の田中氏の話で、一層熱帯林の保
 護・育成を必要と感じたのは、みなの一
 致する思いではないか。
 原生熱帯林の40%がすでに破壊された。
 このまま行けば、ニューギニアも同じな
 のか。是非、そうさせたくなければ僕だ
 けでないと思う。

(西岡・良夫)

「聖域」のジャングル守れ

ボルネオの先住民



プロジェクトが行われているのは、マレーシアの隣国、インドネシアのジャバ島の東部の地域に在る。サラワク州北部のバラム川と、サランガニ川に接する。この地域で伐採中止を主張しているのは、サムリン社と、サマリン社を八社にのぼる。

6.5 各国の保護団体が支持

「伐採を中止して森を返して欲しい」と、ボルネオの先住民が今年も伐採道路封鎖を二週間行った。それに対し、10月31日、世界の環境保護団体は支持する行動を起こします。

関西では「伐採反対・先住民の抑圧反対」署名を取組んでいます。マレーシアの人が来日するので11月始めに集会をもつ予定です。署名と共に協力をお願いします。

この森林地帯は、動物やキノコ、手印が押して来た。一昨秋、トクティンに捕らえられた。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。

「日本に責任は」は誤解
日本は先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。

出荷量減り 値上がりも

一帯の森林地帯は、動物やキノコ、手印が押して来た。一昨秋、トクティンに捕らえられた。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。

伐採道路封鎖 7ヶ月



二週間封鎖された道路は、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。トクティン社が、先住民の権利を主張し、伐採を中止せよと要求した。

会員を募集しています

"ウータン"が総じて6ヶ月。これなら、できるだけ
 たくいんの人達と夜明けをもちながら "暮と社"の日常
 生活"とあつかりを勉強していきたいと思っています。

会員として "ウータン"を支えて下さい。

また、運営面では、できるだけ経費のさらさら少く努力
 してまいります。やはり、月1回の会報の発行及び経費
 に費用がかかります。

年会費 1口 1,000円(郵便振替 大阪3-3880)
 資金面でも皆様のご支援をおまちしてまいります。~ウータン世話人~

編集後記

9月10日、フィリピンのマニラで
 赤瀬が誕生。各紙で一画にトランプ記事
 しかし、日本では一文字もってない。あ
 まりにもアジアと第三世界の事を伝えて
 いない。

ジャカルタ海の水害汚染、マレーシア
 の1ポでの三菱化成の核廃棄物放置事件
 など、どうなっているのか。熱帯林は採
 掘業にわたるが、公害問題や資源問題も表に
 なる時今。(西園)

④ 遠の公開講座が終了。
 ⑤ バにして何人の参加したのか。
 ⑥ 園内における、赤瀬園地とありの人の数
 はいかに増えたか。
 ⑦ 大きな大木を、そして立ちしり園地
 にはほとんどの人を知りたかといつては、
 知らずして、その人の意識の増進を
 こめはにロケル。(菊本)

⑧ 最近、アリの水害がキファンなんの
 にも使われる。園地。その美しい
 花は春に、私達の目を惹きつけてく
 出る。アリの園地を象はかりをなく、
 多くのアマチュアのみなさんに、手塚公
 けり、お書けら出る主由め、敬愛は備わ
 けれど、その花の原産地は、今、後達
 が問題にして、アリの園地をジャンブル
 に見えぬりのより輸入。輸送業者の保護
 と、植物の破壊により、多くのラン
 の種を絶滅の危機に直面して、
 るといふ。

⑨ 南洋杉の板をでまたりピンクグレイブ
 ルの上の一鉢のランの花。ミニミト
 も姿を双えた森がある。—— 自身身
 植物を見たり育てたりするものは、
 花を見て、深到たまることほなり。だけと
 もう少し育たりてほなり。心とどめてかめ
 りが、てせりたり。そんな気なまる。(宇里)
 ♡ 最近、私達は生者を考え、心をほし
 くて、春の森へ行くヒマありません。
 ⑩ 月曜日は、一度おんごんがりと森
 を歩くと、おんごんがりと森。(風)